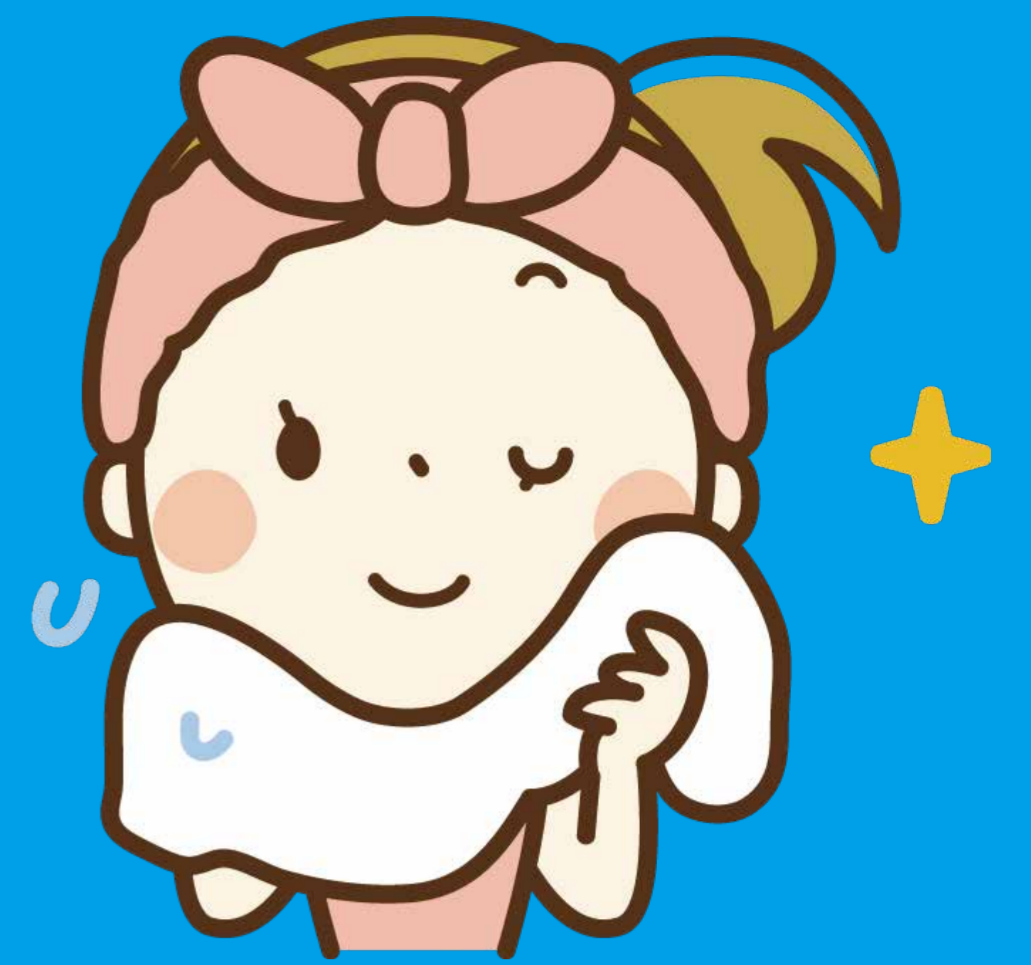


フェイスタオル

を調べてみました



テスト期間 平成27年12月～平成28年3月

対象品 県内の衣料品量販店、ショッピングセンター、百貨店などで購入した9銘柄のタオル

各銘柄の実寸法、重量、厚さ、密度、かさ高性等については次のとおりでした。

	繊維の組成	実寸法 (cm)	重量 (g)	厚さ (mm)	かさ高性 (cm ³ /g)	生産国	価格 (円)
No.1 	綿100%	34.1×84.7	62.8	1.66	7.64	日本	127
No.2 	綿100%	33.3×79.4	96.7	4.09	11.17	インド	290
No.3 	綿100%	33.4×78.7	85.9	2.65	8.11	タイ	321
No.4 	綿100%	35.3×79.8	105.2	4.01	10.75	日本	597
No.5 	綿100%	35.2×74.0	75.9	2.72	9.32	日本	1,080
No.6 	綿100%	34.9×79.4	106.4	5.91	15.39	タイ	1,512
No.7 	マイクロファイバー ポリエステル80% ナイロン20%	33.8×79.2	68.8	2.35	9.12	中国	240
No.8 	マイクロファイバー ポリエステル85% ナイロン15%	33.3×78.1	112.5	2.87	6.63	中国	537
No.9 	綿とマイクロ ファイバー混用 綿90% ポリエステル10%	33.8×80.7	111.3	4.24	10.40	日本	1,188

フェイスタオル

を調べてみました

テスト結果 ①

表示事項

- 家庭用品品質表示法の繊維製品品質表示規程や日本工業規格（JIS）等で義務付けられている「**繊維の組成**」や「**表示者名等**」（氏名または名称、住所または電話番号）は、**全銘柄で適正に表示**されていました。
- 製品の**キャッチフレーズ**を比べてみると、**綿100%**の銘柄では「**肌触り**」や「**糸の撚り方**」などが、**マイクロファイバー**の銘柄では「**吸水性**」や「**速乾性**」が多くみられました。

吸水速度

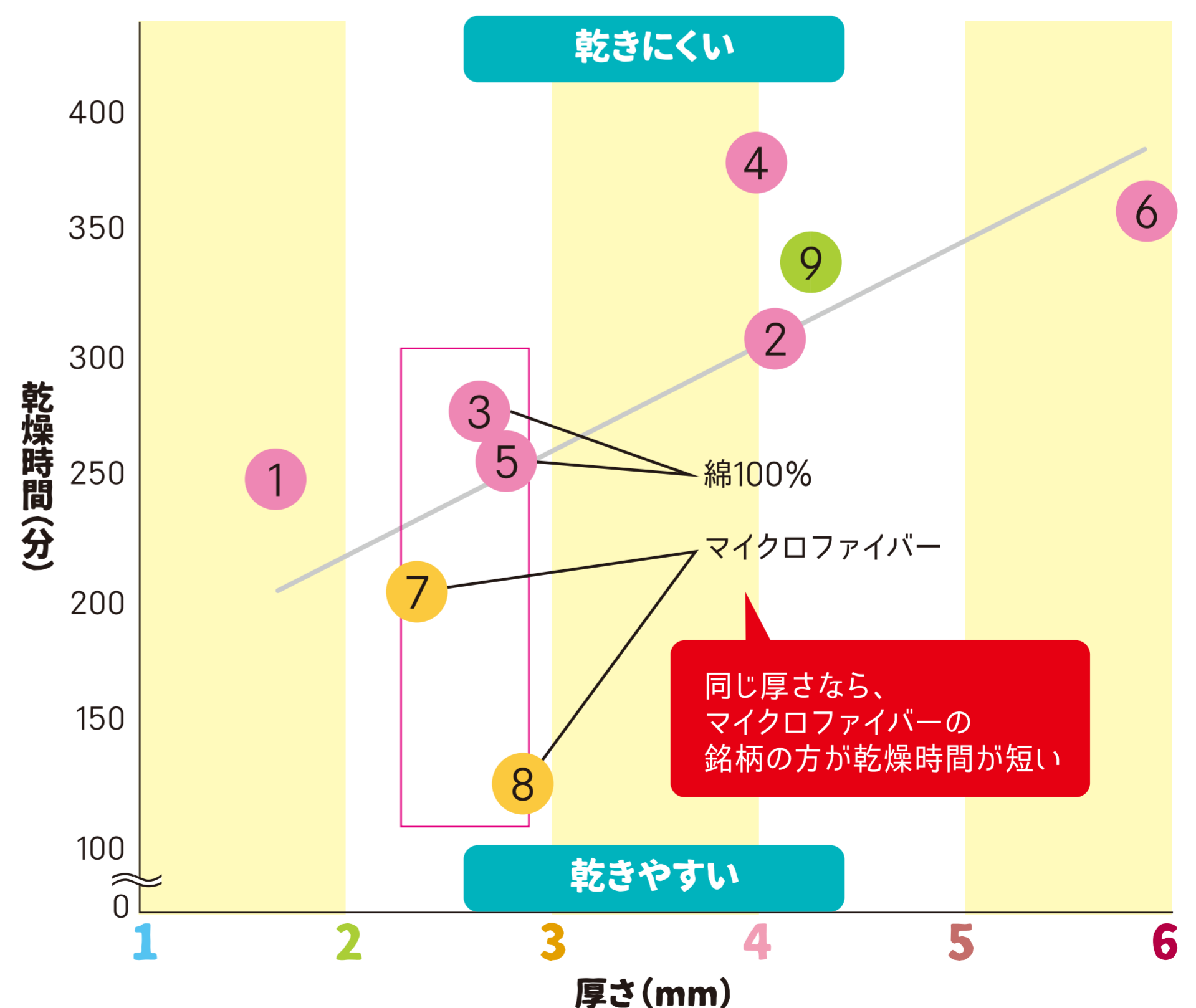
- 沈降法（生地片が水に沈む速度）では、綿および綿主体の銘柄は5秒以内に沈みましたが、マイクロファイバーの銘柄は60秒経過しても沈みませんでした。
- 滴下法（滴下した水滴が生地片に吸収される速度）では、全銘柄で速やかに水滴が吸収され、繊維の組成による差は認められませんでした。

乾燥時間

- **生地が厚いほど乾燥時間が長くなる**傾向がありました。
- **マイクロファイバー**の銘柄は、綿の銘柄に比べて、**乾燥時間が短い**傾向がありました。



タオルの乾燥時間と厚さの関係



フェイスタオル

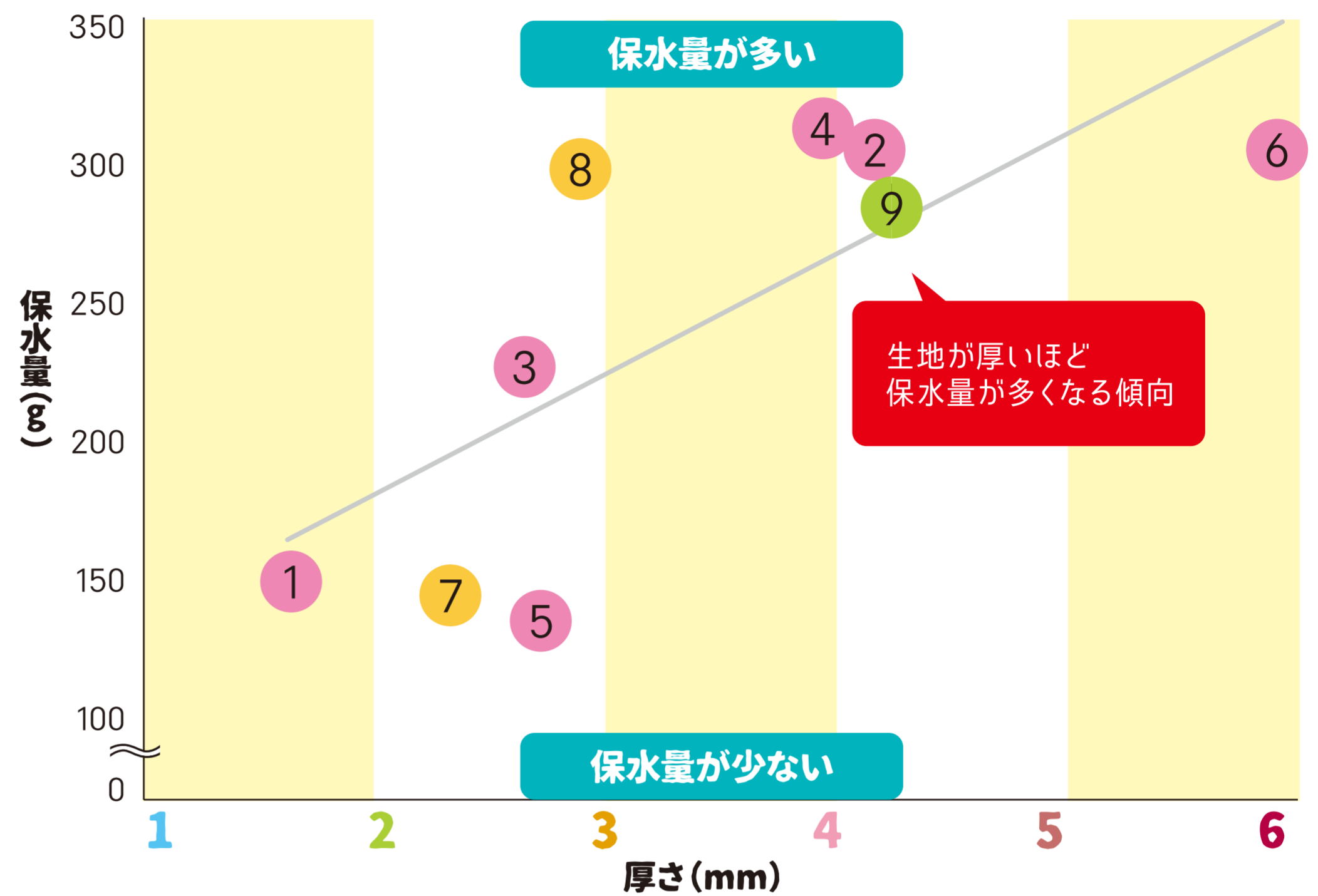
を調べてみました

テスト結果 2

保水量

→ 生地が厚いほど保水量が多くなる傾向がありましたが、綿とマイクロファイバーなど繊維の組成による差は認められませんでした。

タオルの保水量と厚さの関係



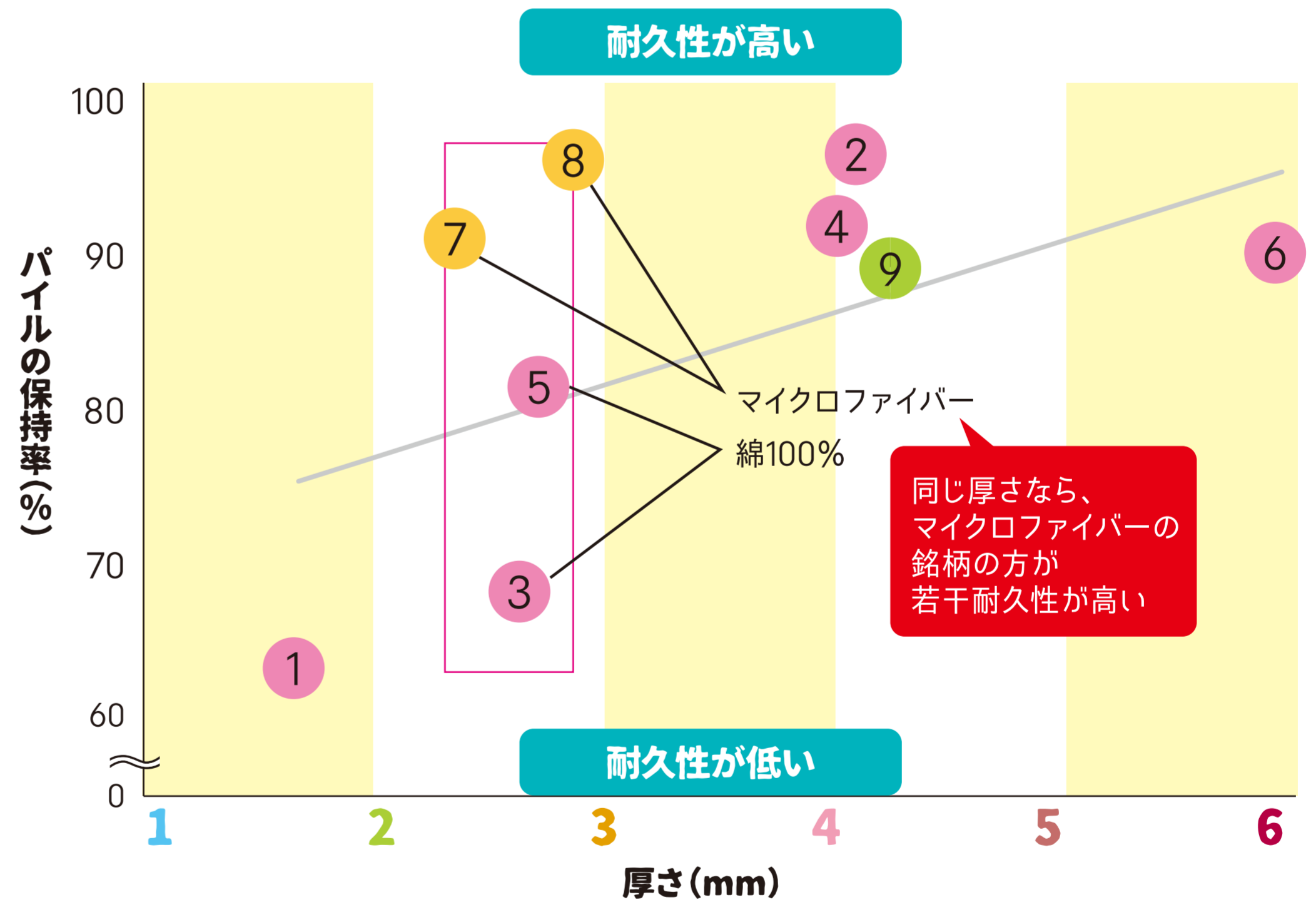
パイルの耐久性

→ 生地が厚いほどパイルの保持率（抜けにくさ）が大きく、耐久性が高くなる傾向がありました。

→ マイクロファイバーの銘柄は、綿の銘柄よりも耐久性に優れている傾向がありました。



タオルのパイルの保持率と厚さの関係



包装方法等

→ 透明のタグピンを使用している銘柄がありました。タオルから取り外した時、ループ状の糸にからまってピン切れ端が生地に残った場合に発見しにくく、顔や手などへのケガが考えられます。



フェイスタオル 消費者へのアドバイス

を調べてみました

購入時の留意点

同じ素材でも、銘柄によって厚さや手触りなどに特徴があるので、以下の項目を参考にするとともに、**実際に手にとって確認し、自分の目的に合ったものを選択**するようにしましょう。

- ① **マイクロファイバーの銘柄**の多くは、「吸水性」や「速乾性」をキャッチフレーズにしているが、「吸水速度」や「保水量」は綿の銘柄と比べて大きな差があるとはいえなかった。
ただし、**乾燥時間が比較的短く**、タオル地（糸がループ状になったもの）の**耐久性が若干優れていた**。
- ② 綿の銘柄の多くは、「肌触り」などをキャッチフレーズにしており、モニターテストでも顔拭き等で使う場合、生地が綿で比較的厚い銘柄の方が評価が高かった。
- ③ タオルの品質向上と保持を目的に、**独自の品質基準を設定し**、表示している銘柄もあった。



使用时等の留意点

- ① タオルは、肌触りや手触りなどをよくするためループ状になった糸を織り込んであり、**強く摩擦したり、引っ張ったりすると糸が飛び出したり抜けやすくなる**ので注意しましょう。
- ② 洗濯時には、**洗濯ネットを使う**とともに、風合いを保つため（肌触りをよくするため）**乾燥機の使用は避けましょう**。
干すときは十分に伸ばし、形を整えておくと手触りのよい状態を保つことができます。
- ③ **柔軟剤の使用は避けましょう**（撚ってある糸が滑りやすくなり、生地から抜けやすくなるため）。
- ④ **糸が飛び出した場合は**、無理に引っ張らずに**ハサミで切り取る**とよいでしょう。
- ⑤ タオルを止めたタグピンを取り外す場合、**ピンの切れ端が生地に残らないように十分注意**しましょう。

